利用者寄り添い 誇りに

「介護の日」石本さん講演

介護職の意義や魅力を伝えようと13日、県介護福祉士会が「介護福祉士が輝ける未来へ」と題し、那覇市の県男女共同参画センターでいるるで講演会を開いた。講師で日本介護福祉士会副会長の石本淳也さんは「利用者に寄り添うことが介護福祉士の仕事で、仕事に誇りをもってほしい」と訴えた。介護福祉士や介護職を目指す学生ら約170人が熱心に耳を傾けた。

「介護福祉士は仕事に誇りをもって、やりがいを発信していこう」と話す石本淳也さん＝那覇市の県男女共同参画センターでいるる

介護職の意義や魅力について耳を傾ける参加者＝那覇市の県男女共同参画センターでいるる

11日の介護の日にちなんだ催し。

石本さんは「少子高齢化の時代になり、介護職の人材確保や資質の向上が求められている。介護福祉士は従来の身体介護にとどまらず、認知症の介護など、心身の状況に応じた介護が必要になる」と指摘した。

介護職のイメージは「きつい、汚い、危険の3Kに、最近は給料が低い、結婚できないが追加され、5Kといわれ、ネガティブなイメージが先行している」とした上で「現場の6割が今後も就労意欲があると答えている。また、介護職以外の業種と比べ安定した雇用環境にあり、生活できない賃金ではない。キャリアアップを目指すこともできる」と利点を強調した。

さらに「介護福祉士の技術や知識はあくまでも手段。利用者の幸福を追求していくことが大事。幸福の感じ方は、環境や人生観によってさまざまで、個別的なケアやその人らしさの探求が求められる。現場の楽しさや利用者の笑顔が、やりがいにつながる」と魅力をアピールした。

介護職を目指す県立真和志高校3年の伊波諒君（18）は「利用者に寄り添える関係を築き、生きがいを一緒に探していけるような仕事をしていきたいと思った」と感想を述べた。